

会 議 録

- 1 会議名 令和8年度博物館協議会
- 2 議 題 (1) 令和7年度の事業実績について
(2) 令和7年度の博物館評価について
(3) 令和8年度の事業計画について
(4) その他
- 3 開催日時 令和8年7月29日(水) 13時30分～16時00分
- 4 開催場所 北九州市立自然史・歴史博物館 1階 会議室
- 5 出席者氏名 [協議会委員]
阿部委員、井上委員、鬼本委員、杉山委員、富田委員、
針生委員、三浦委員、吉田委員 (欠席：3名)
※ 委員11名のうち8名が出席
[事務局]
江藤普及課長、森自然史課長、日比野歴史課長 他
※ 真鍋館長、中村副館長(同席)

6 会議経過(発言内容)

(1) 開 会

【正副会長の選任】

委員の互選により、会長に阿部委員、副会長に杉山委員を選出した。

阿部会長より「自然史・歴史が高い理念を掲げて発展してきた様子を見てきた。変化に対応しつつさらなる発展を応援したい」、杉山副会長より「生物多様性が危機的な状況にある中、この学びの場がある意義は大きい。協議会は多様な立場の委員から構成されており、各々の立場の知見を共有したい」との挨拶があった。

議題1 令和7年度の事業実績について

【事務局説明】

令和7年度事業報告(博物館年報)に基づき、入館者数(433,280人)、4回の特別展実績、広報実績、ミッション策定、教育普及活動(学校団体利用約5.4万人、不登校児童生徒支援等)などについて報告した。

【委員意見○と事務局回答●】

- 重点事業の「東アジア友好交流」で中国側が不参加だった理由は。
- 開催1週間前に急遽連絡があり、具体的な理由は示されなかった。
- ミッションを策定したことで、館内に変化はあったか。
- 全職員で検討会議を重ね、「博物館はどうあるべきか」を真剣に考えるきっかけとなり、当事者意識が芽生えたことが大きな変化だと考えている。
- ナイトミュージアム（3/21）の来場者が2,000人を超えているが、対応は。
- 次回からは前売券のみ800枚限定としてオペレーションを改善している。

議題2 令和7年度の博物館評価について

【事務局による自己評価説明】

評価方法を大幅に変更した。評価項目を職員の努力で達成可能な「自律的項目」と外部要因に左右される「他律的項目」に分類し、量的・質的の両面から、加重平均によるスコアリングを行う形式とした。全体として自己評価は「A評価」となった。

【外部評価小委員会委員長（協議会会長）による外部評価案説明】

8評価項目全て、自己評価と一致している。

各評価項目について、委員意見を紹介するので、事務局に回答をお願いしたい。

【委員意見○と事務局回答●】

1. 資料収集・管理

- 歴史のデジタルデータベース登録数が低い（D評価）要因は。また自然史と指標が違う理由は。
- 自然史は「登録台帳への掲載」、歴史は「詳細なプロセス完了」とゴールの考え方が異なるため数値に差が出た。歴史課では未処理の寄贈資料の受入手続きを最優先した結果、計画していたデータベース登録作業が後回しになった。次年度以降は実態に即した指標を作りたい。

2. 調査研究

- 学芸員の調査研究について、来館者調査や教育普及に関する研究があるとさらによい。外部資金獲得や論文数、学会表彰などは高く評価できる。
- 資料そのものの研究に偏りがちだった点は反省している。博物館学の視点から、日々の教育普及活動などをいかにアウトプットするか、紀要への投稿を含め館内で議論を深めたい。

3. 展 示

- 展示アンケートの「理解が深まったか」という問いは抽象的。広報効果を測る項目や、どの展示に興味を持ったかなど具体性を持たせるべき。

- 指標として報告していたのは一部だが、実際には設問として既に存在する。より精度の高い分析ができるよう、継続的な統計とテーマごとの設問のバランスを研究したい。

4. 教育普及

- 学校教育支援の目標設定が曖昧。市内・市外、修学旅行と社会科見学を区別して、評価してはどうか。不登校児童生徒支援のような新しい仕事による学芸員の負担増が心配。
- 当博物館の学校教育支援については、当館が計画をたて目標を達成するものではなく、学校側の目標やニーズにいかに対応するかということが重要と考えている。そのため柔軟性や連携が大事であり、教育委員会や学校との連携を担う元教員等を窓口として配置している。仕事量については無理のない範囲で調整している。なお、市内外等を区別した評価については、学校団体は市外からの利用が非常に多く、広域の教育支援に貢献している。
- それぞれの活動の質について、見える化された評価があればよい。参加者の意見を反映させるべき。参加者が少ないプログラムがあるのはもったいない。
- 今後の評価のあり方として、研究したい。
- 不登校支援「未来への扉」の対象選定基準は。
- 博物館で基準は設けず、教育委員会が主体となって行っているが、対象は選定していないと聞いている。

5. 情報発信

- HP 閲覧数が減り、SNS が増えている。リール動画の活用や、アンケートの自由記述を「利用者の声」として SNS で紹介してはどうか。
- SNS は学芸員が直接投稿できる体制にしたことで件数が大幅に増えた。チラシというオールドメディアも学校経由で配布しており高い集客効果がある。利用者の声の紹介は非常に良い視点なので検討したい。

6. 市民との協働

- ボランティアの高齢化対策と、資料整理補助グループの人数増の理由は。
- 昨今の高齢者はとてもお元気で、ボランティア活動をリタイア後の生きがいづくりをしているように見受けられる。若年層の確保は課題。人数増は新たに哺乳類や鳥類などの整理グループが本格始動したことが要因。

7. 社会貢献

- 依頼件数（の増減）を評価指標とすることは疑問。
- 他律的な側面が強く、評価のあり方は難しい。博物館のあるべき姿とリンクした評価であるべき。中長期計画策定の際に、評価指標を検討したい。

8. その他

- ミッション策定は評価できるが、ユニバーサルデザイン（UD）の視点での改善がもう少しあってもよい。

- ユニバーサルミュージアム推進担当係長を中心に組織として取り組みたい。
- 手すりのカバー設置などは学校としても安心。一方で、滞在時間が限られるなか、資料が多すぎて子供が目移りすることがある。「3年生ならここ」といった案内や、現地でメモできる「子供向け資料・マップ」があれば学習に役立つ。
- 現在スタンプラリー付ガイドブックはあるが、より学習に貢献できる資料作成を検討したい。

議題3 令和8年度の事業計画について

【事務局説明】

運営体制、予算、展示会などについて説明。

夏の「とぶ 空を旅する生きもの大冒険」、秋の「昭和 100 年 おもちゃと暮らしの大博覧会」、春の「(仮称) によろによろ生物展物」、さらに、東アジア友好博物館館長会議及び合同研究会の韓国・仁川広域市での開催、殺虫・防カビ剤の変更等について説明した。

【委員意見○と事務局回答●】

- 薬剤が販売終了とのことだが、今後の防除体制は。
- 二酸化炭素燻蒸等への切り替えを進める。薬剤に頼りすぎない IPM（総合的有害生物管理）の日常管理（清掃・環境調査など）を強化しつつ、貴重資料には必要に応じ薬剤処理を行う。
- 新収蔵の「恵良宏コレクション」を早期に公開するのは良いが、収集から展示までのマネジメントサイクルを確立すべきではないか。目録登録は終わっているのか。
- 収集は「収蔵庫に入れること」がゴールではない。今回は目録の作成を先行させたことで早期公開が可能になった。資料管理計画の策定のなかで「収集から活用まで」の流れをマネジメントとして確立したい。

議題4 その他

【事務局報告】

白亜紀のクモ化石が新属新種（エナコスファルマ・ナガシマイ）と判明したことを報道発表。7月31日から展示開始。また、植物担当の大崎学芸員が4月に着任した。

【委員意見○と事務局回答●】

- 名誉館員の就任時期が誤記ではないか。
- 館長就任前の博物館勤務期間で一度規定を満たし、退職時に名誉館員となった後に館長として再任された経緯がある。表記は工夫したい。
- 自己評価と外部評価のかい離が埋まり、正當に評価されるようになった。今後は「いのちのたび博物館」ならではの強み・ポジショニングを明確にすべき。

- 独自の強みを整理し、共有していきたい。

（３）閉 会

【館長挨拶】

今後の博物館活動の改善・充実に大変参考になるご意見をうかがえた。博物館活動のパフォーマンス向上のための「博物館学的な研究」や「ユーザー目線」でのニーズ把握が重要。評価についても、単なる参加者数（アウトプット）ではなく、子供たちがどう感じたかという「効果（アウトカム）」まで測定できる方法なども研究していきたい。SNS 活用については、若年層への影響を含め慎重かつ中長期的な視点で検討していく。

７ 問い合わせ先

都市ブランド創造局 自然史・歴史博物館

電話番号 ０９３－６８１－１０１１